

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム あかね やすらぎ館	評価実施年月日	平成21年9月10日
	小林・今川・橋場・向中野・児玉・宮本		
記録者氏名	佐伯	記録年月日	平成21年9月24日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	不安や孤独感を取り除き、その人らしく地域の一住民として、ゆったりと普通の生活が出来るような理念を作っている。	
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「理念」をスタッフの目に付きやすいあらゆる場所に掲示し、常に理念を意識しながら業務に携われるよう工夫している。	「理念」を遂行するに当たって、基本的な倫理性の再確認の為に、「理念」と合わせて「倫理規定」も掲示している。カンファレンスでも確認しているが、全職員が、自然に意識出来るようになるよう取り組んでいきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念に即して生活して頂いている様子を、毎月発行している「あかね便り」でお知らせしたり、運営推進会議の中でも報告するなど、あかねの色(理念)を理解して頂けるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	出勤途中や入居者様の日光浴・散歩などで、近隣の方とお会いした時には、笑顔での挨拶を欠かさないようにしている。こちら側からの一方通行ではなく、近隣の方々からも話しかけて下さる事が増えてきている。定期的に来訪される方や児童会館の子供達とは良い関係が築けている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会していると共に、折々の行事に等の参加する事で、グループホームに対する理解者が増えてきている。地域の方による健康体操教室や児童館の児童の来訪も継続しており、外出レクでは車椅子介助のご協力も頂き、地域の一員として至極自然に溶け込んできている。	毎月お招きしている余興ボランティアさんを地域の方も一緒に楽しもうと、お誘いのピラを玄関フードに掲示しているが、参加者が殆ど皆無に等しい。地域の方々にも参加頂けるような工夫をしていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	リングブル・古切手の収集協力を継続している。又、地域の健康体操教室メンバーからの依頼により、「認知症キャラバンメイト」である管理者が講師を担い「認知症サポーター養成講座」を開催している。	今後も出来る事で協力させて頂き、「認知症サポーター養成講座」も依頼があれば開催したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		より良いホームの為に、評価をいかしていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		運営推進会議以外の何かで市町村との連携を取れる方法を思案中である。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		定期的に学習会を設け、全職員が支援できるようレベルを目指したい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		職員が気持ちにゆとりを持って介護に携わる事で、虐待が起きないように職員の精神的な管理を引き続き行なっていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		契約時や解約時には、十分な時間をとって説明を行い、ご理解・納得が頂けるように配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居様が普段の生活の中で意見・不満・苦情があれば話せるような関係が職員との間に出来ており、何かあれば話して下さっている。又、いつもと違う様子が窺える時には、気持ちを表出しやすい環境を設けている。お話し下さった事を他人居者様の事も視野に入れながら、出来るだけ納得頂ける方向に持っていきけるよう努めている。		共同生活であるため難しい面も出てくる場合もあるが、個々の意見が出来る限り反映される場でありたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月発行している「あかね便り」に、普段の生活の様子が伝わるように写真を添付してお知らせしている。又、来訪時や必要に応じて電話にて報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を設置すると共に、何かあれば気楽に話して頂けるように、ご家族様との関係作りにも配慮している。希望等があれば話して下さるご家族が多く、出来る限り誠意を持ってご希望に添えるよう努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行なっているカンファレンスでは必ず職員からの意見や提案を聞く時間を設けており、日々の業務の中や毎朝の申し送りでも意見や提案があれば話してもらっている。好ましい意見や提案は、他職員の考えも確認して迅速に反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況の変化に合わせて勤務調整が出来る体制になっている。又、管理者には24時間体制で連絡が取れるようになっており、必要に応じて勤務の調整を行い、柔軟な対応を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	勤続年数の長い職員を表彰したり、3年以上勤続している管理者には退職金制度を導入するなど、運営者は異動や離職を最小限度に抑える努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者は、管理者や職員が積極的に研修を受ける機会を与え、資格取得のための予算も組んでいる。管理者はカンファレンスの中で勉強会の時間を設け、職員のスキルアップを目指している。</p>	<p>今後も職員が更にスキルアップ出来るよう、機会を提供したい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修などの参加を機会に同業者との繋がりが出来るよう心掛けている。研修終了後も交流の機会を持っており、お互いに情報交換をし、良い面を取り入れて反映させ、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は、管理者や職員に対して食事会など慰労の場を設けている。又、全職員の誕生日を把握しており、バースデーケーキをプレゼントしてくれるなど、管理者や職員のストレス軽減の為の工夫をしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>経営者は、研修会や勉強会などの情報を管理者や職員に提供すると共に、研修費用や資格取得費用を負担してくれる等、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が一方向的に話を進めてしまいがちだが、ゆったりと落ち着いた姿勢で待つ事で、ご本人の言葉を自然な形で引き出し、受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族の想いや希望を十分に傾聴し受容・共感する事で、信頼関係構築の努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族との話し合いの中から、必要としている支援を見極めるように努めている。グループホーム入居だけでなく、各種の介護サービスを含めた情報提供を行い、在宅での生活の継続も視野に入れた対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居を決める前に、ご本人やご家族にホーム内を見学して頂き、入居者様や職員を交えての談話の時間をもち、ホームの雰囲気を掴んで頂いている。入居が決まった場合には、その時の様子を参考に食席や対応方法を検討する。入居後は本人のペースに合わせて徐々に馴染んでいけるようにご家族とも相談しながら、環境変化によるダメージを最小限に出来るよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者さんを「人生の先輩」として捉え、長年培われてきた知恵など教わる機会を設けている。介護する側とされる側の関係ではなく、お互い不足する部分を補い助け合い、労う関係が保てるよう努めている。嬉しい事は共に喜び、悲しみや怒りは本人の気持ちになって聴くという姿勢を忘れず、些細な事でも謙虚に受け止め、関係の構築に努めている。		喜怒哀楽を共に出来る関係を今後も継続していきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の気持ちに共感するよう努め、関係を築きながら共にご本人を支援している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	お互いの思いが上手く伝わっていなかったり誤解を生じてしまっていると察した時には、職員が介入する事でより良い関係が継続していけるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	大切な馴染みの方が再来訪しやすいような明るい声かけや対応に心掛けており、ホーム内や周辺環境も明るく落ち着いた雰囲気に設定し、違和感を感じさせないよう配慮している。又、散歩途中など入居者様が知人と出会った時には、立ち話を一緒に楽しんだり、遊びに来て下さるよう声かけをしている。本人の意向をご家族にお伝えし、馴染みの場所にも行けるような支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の相性や認知症の程度を考慮して、食席や外出の組み合わせ等を決めている。又、難聴で会話に入っていけない等で孤立してしまいがちな入居者様には職員がフォローし、良い関係作りに努めている。		孤立して寂しい思いをする入居者様がいないように今後も支援したい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院などのため、契約が終了された方のご家族から相談があった場合には快く応じており、関係継続に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様との信頼関係の構築と心の内を語りやすい雰囲気作りを心掛け、本人の希望や意向などが常に把握出来ているように努めている。認知症が重度な為、言語でのコミュニケーションが困難な場合には、表情やしぐさ・行動などの非言語コミュニケーションを通して本人の思いを把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前には必ず、担当ケアマネやソーシャルワーカー等からの情報とご家族や知人からの情報を頂き、入居時にはある程度の把握は出来ているよう努めている。入居後は、入居者様との会話や面会時にご家族や知人から何うお話の中から、情報の骨子に少しずつ肉付けしていき、豊富な情報が得られるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝、職員がバイタル測定と体調確認を行っている。又、日々の見守りの中から、一人ひとりの有する力と希望を把握し、それに見合った役割を担ってもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員を兼ねている管理者が中心となり、全職員で介護計画に関しての話し合いの場を設けており、お互いの意見・情報・アイデア等を出し合い、本人や家族からの要望や意見も取り入れて計画作成担当者によって作成されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の評価・見直しは、通常3ヶ月毎に行っているが、新規の場合は入居前に入手した情報から暫定ケアプランを作成し、1ヶ月以内に見直しを行っている。又、状況に変化が見られたり新たなニーズが生まれた場合には、現状に即した新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌と個別の記録により、全職員が情報を共有できる体制になっている。情報を共有し実践している事が、介護計画の見直しにも活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出やレクリエーション等、本人や家族の要望に出来るだけ応じるよう努めている。又、提携している病院以外への通院は基本的にはご家族にお願いする事にはなっているが、ご家族やご本人の状況に応じて、管理者が通院介助を担うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防には救命救急講習・避難訓練で協力を頂いており、余興・健康体操のボランティアさんや児童会館には、入居者様の生活の質向上の為の協力を頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問美容、紙おむつ支給サービス、介護タクシーを活用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員には地域包括支援センターの介護支援専門員も加わっており、意見等も頂き繋がりが持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	連携している医師に関して、入居時に管理者から本人及び家族にお話し、納得の上でかかりつけ医になっている。希望等があれば必ずかかりつけ医に伝え、医師も希望に添うよう親身になってくれる。かかりつけ医とは信頼関係が築けており、24時間体制で適切なアドバイスや医療が受けられている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	信頼関係が築けているメンタル専門医があり、専門医に結び付ける必要性を感じた場合には、家族やかかりつけ医にも相談し、専門的な治療を提供できるような支援体制が整っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員が確保されており、毎週看護師が来館して日常の健康管理や相談をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院になった場合でも入居者さんのダメージが最小限に抑えられるように、病院との連携を密にして早期退院に努めている。又、管理者や職員は頻繁にお見舞いに行き、状態をその都度かかりつけ医に情報提供している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	機会ある毎にご本人やご家族からの意向を伺ったりお話しする機会を設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度の入居者さん対しても尊厳を重視し、その人らしくより良く生活してもらえるよう支援している。現在対象者はいないが、終末期にもご家族やかかりつけ医とも相談しながら継続してケアできるよう、管理者はターミナル研修を修了しており、職員向けの勉強会も行なっている。		今後の変化に備えて、夜勤帯などの管理者不在時にも冷静に対応できるよう全職員のスキルアップを目標に、研修や学習会に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>十分な情報交換により、環境変化によって本人が受けるダメージを最小限に抑えるよう配慮している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>その人らしさと尊厳を大切に考え、自信や張りのある生活をして頂けるような言葉かけや対応に配慮している。又、個人情報は関係者以外の目に触れる事のないよう、保管等にも配慮している。</p>		<p>認知症が重度になってもプライバシーが確保されるのは当然の事である。倫理性を持った職員の定着を図っていきたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。</p>	<p>本人のペースに合わせた間の取り方やゆったりと落ち着いた話し方で、思いや希望を引き出せるよう努めている。又、本人の理解力に合わせた説明を行うことで、自己決定を促しながら納得できるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>就寝・起床時間は設けておらず、職員の都合に合わせる事をせず本人主体の自然なペースに合わせている。食事時間や形態などは入居者様の希望や体調を優先させている。買物や散歩などの外出も、本人の希望や職員側からの声かけにて充実して過ごせるよう支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意志での身だしなみが難しい方には、爪切り・耳掻き・顔剃りを定期的に行っている。自己決定できる方は、好きな洋服やアクセサリーでおしゃれをしてもらい、難しい方は本人に似合う色合いの洋服やエプロンを、本人の反応を見ながら職員が選び、その人らしいおしゃれが出来るよう支援を行っている。理容・美容は、毎月の訪問美容を利用されている方が殆どだが、他の理容院を希望される方には希望通り対応している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立は、栄養士がカロリー等を考慮して作成しているが、調理方法や味付け等は極力要望に応え、苦手な献立の時には臨機応変に対応している。(肉類が苦手な方には魚メニューに変更して提供する等)週末は自由メニューになっており、入居者様の希望の物を提供したり、食事の時間が楽しい時間になるように工夫している。簡単な調理・下ごしらえ・盛り付け・片付けは、本人の有する力と希望に合わせて一緒にやっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙する入居者様はいないが、お酒好きな方にはお酒を楽しめる時間を設けている。おやつと飲み物は、1日2回のおやつ時間に本人の好みに合わせて提供している。買物を希望される場合は、スーパー等で嗜好品が購入できるように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックで、排泄のパターンや習慣を把握し、時間を見計らっての声かけ・誘導にて排泄の失敗を防ぎ、本人に不快感を与えないよう支援している。		入居前はおむつを使用していた方でも、排泄パターンや習慣を把握する事で布パンツの使用に至っているケースもある。今後も、おむつは出来るだけ使わず、本人の自信に繋げたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日対応している為、毎日でも本人が入浴したい時にしてもらう事が可能である。拒否が見られる場合は無理強いせず、気持ちが向くような声かけ・対応にて、入浴を楽しみ時間に思えるよう工夫している。拒否や体調不良にて入浴出来ない場合には、清拭・ドライシャンプー・手浴・足浴にて保清に配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ホールにソファを置き、玄関フードや事務室前にはベンチを置いて、好きな時に好きな場所でゆったりのおんびり寛げる様に工夫している。又、夜間の安眠の為に、日中の散歩やレク・体操等で活動を促している。なかなか眠りにつけない方には、暖かい飲み物の提供や職員の関わりにて、落ち着き安心して入眠できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割を、無理のないよう配慮しながら促している。又、手品・腹話術・踊り・歌・楽器演奏など多種多様の余興ボランティアさんの慰問や買物・外食・散歩・外出レクなど外出の機会も設けている。その事で張り合いや楽しみのある日々が送れ、気分転換が出来るよう支援している。		今後もボランティアさんのご協力を頂き、楽しみ事が増えるように支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理者が管理して少額ずつお渡ししている。支払い時にはその方の力に応じて手助けしている。認知症が重度の方でも職員と一緒に買物に行き、社会性を失わないよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>ご本人の希望に添って、職員と一緒に散歩や外気浴、買物に出かけられるよう支援している。外出レクや外食も行っており、屋内だけではなく屋外での楽しみの機会も積極的に作っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>認知度やニーズに個人差がある為、全入居者様が同じ場所に出掛けるのはQOLを考慮すると不適切と思われる。個別又は数名で、ご本人の希望に添った場所へ職員と出掛けている。家族との外出・外泊に対しての支援も行っている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>事務室やホールに電話を設置しており、本人の希望でいつでも電話が使えるようになっている。その際、職員が支援している。手紙に関しては、葉書を希望された入居者様に葉書をお渡しした経緯はあるが、現在、手紙でのやり取りをされている入居者様はなく、電話が主である。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>面会時間は決めておらず、いつでも気軽に自由に訪問出来るようになっている。お部屋でお茶を飲みながらゆっくりおしゃべりして頂いたり、相談事があれば対応し、居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>カンファレンスの中での勉強会を開催しており、全職員が周知出来ている。入居者さんが苦痛と感じる身体拘束はしないケアは日常的に自然と取り組まれている為、禁止の対象となる行為を行なった経緯はない。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>居室には鍵は付けていない。鍵を希望される入居者様も居るが、理由をお話させて頂き納得されている。玄関には日中鍵はかけておらず、見守り強化にて対応している。外出したい時には自由に出掛けられるようにはなっているが、安全面に配慮し必ず職員が同行させて頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りリーダーを中心に見守りを強化し、安全に配慮している。自室に居る方も、時間を見て訪室し様子を確認している。その際、ノックや声かけは必ず行い、プライバシーには充分配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	漂白剤・洗剤などの危険な物は手の届かない所に保管している。はさみや剃刀など個人の危険物に関しては、入居者さん個々の状態や能力を見極めて、こちら側で保管した方が良いと判断した物は、話し合い、充分納得して頂いてからお預かりしている。入居者さんの身の安全を配慮しながらもソフトな取り組みをしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者さん一人ひとりの状態をその都度、全職員が把握出来ているように連絡事項等には必ず目を通すよう義務付けている。判断に迷った時には管理者から指示を仰げる体制にもなっている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防の救命救急講習を受け、心肺蘇生など緊急時の対応を全職員が出来るように努めている。又、管理者が「応急手当普及員」の資格を取得しており、定期的に講習会を開いたり知識などを職員に伝達しているが、全職員が応急手当や初期対応が出来るとは言い難い。		定期的に講習会を開き、救命教育を充実させていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防による避難訓練は毎年受けている。又、災害時に効率良く入居者さんが避難出来るように、カンファレンスなどで話し合ったり万一の場合に備えている。避難訓練や出前講座テーマ「いざという時の地域の支えあい」には、町内会の防犯防災部長を始め地域の方々にもご参加頂き、協力を得られるような関係作りに努めている。		万一の時には地域の方々の協力を得られるよう、今後も働きかけて行きたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時や来訪時、又は電話でお話しする機会を持っている。抑圧感を与えることなくのんびりと、それでいて安全に過ごせるよう考慮している。職員が危険など感じた際には、些細な事でも管理者に報告されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>今後の学習会で取り上げ、全職員が理解を深める事で誤薬防止に努めたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>認知症の心理・行動障害の原因ともなり得る為、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>今後も慎重に取り組んでいきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理用品・布巾などは毎晩消毒を行い、台所周辺や台所用品の清潔を心掛けている。食材の在庫チェックはこまめに行い、賞味期限等は必ず確認し、常に新鮮で安全な食材を使用出来るよう、管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	プランターに花を植え建物周囲に置いたり、木製のベンチも置かれ、温かい雰囲気を出せるように気配りしている。玄関は日中施錠をせず、イラスト・リース・置物などを飾ったり明るく親しみやすい雰囲気を工夫している。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	壁には写真や絵を貼ったり等、明るく心地良い環境作りを工夫している。七夕・クリスマス・お正月など季節折々の小物を飾ったり、季節感も取り入れている。居間のホワイトボードには月間予定を記入し、行事を楽しみながら待てるように工夫している。全体照明と局部照明を設置して照明の微調整をしたり、椅子の裏にクッションシートを貼り付け不快な音を防ぎ、浴室やトイレも常に清潔を心掛け、不快感なく気持ち良く使用できるように配慮している。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファやベンチを置いており、自室以外の場所でも一人になれたり、気の合う同士で談話したり、寛げる場所を設けている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居の際には、ご本人が以前から使っていた慣れ親しんだ家具など、馴染みの物を持って来て頂けるようご家族にお願いしている。入居後も、家族やペット、行事の時の写真などを居室の壁に貼ったり、手作りの小物など本人の気に入った物を自由に飾って頂き、居心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。		安心して落ち着いた生活のために、居心地の良い環境作りを今後も工夫していきたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	24時間換気システムや温湿度計を設置して、快適な室内環境を保てるよう配慮されている。パネルヒーターは全室に設置してある為、本人の好みや健康状態を考えて微調整できる。暖房を使用する時期には、ホールだけではなく全室に加湿器を置き、空気の乾燥防止に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

毎月、手品・フラダンス・どじょうすくい踊り・腹話術・オペラ・オカリナ演奏・ジャズコンサート・・・など、様々なジャンルの余興ボランティアさんをお招きし、入居者様と一緒に職員も楽しみを共有しています。又、筋力低下予防の一環として、毎日スタッフが介護予防体操をしておりますが、第4月曜日には地域の健康体操サークルの方々が来訪し健康体操教室を行なってくれています。斜め向いには児童会館があり、お誕生日や行事に合わせて踊りや歌を披露してくれたり、手作りカレンダーや掲示の交換などに来てくれています。その他にも、「遊びに来ました～！」と時折元気な声を聞かせてくれ、子供たちとも自然な関わりができています。運営推進会議には町内会長さんもお出席下さり、又、近隣の方とも挨拶を交わしたりお話したりする機会も増えてきており、地域に密着した開かれたグループホームになってきていると感じております。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム あかね 2F くつろぎ館	評価実施年月日	平成21年9月15日
評価実施構成員氏名	君島/小清水/大島/佐藤/中地/澤田/澤谷		
記録者氏名	澤谷	記録年月日	平成21年9月18日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念は作成している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の目の届く場所に理念を掲示し、認識できるようにしている。「その人に合わせた生活」「その人が生きがいや喜びを感じ、明るく快適な生活ができる」ように、身体で感じてケアするようにしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	どちらかと言うと、今までの運営推進会議は出前講座を開催することが多かったが、最近はホームの活動内容を家族や地域住民に知って頂こうと考え、これらの内容(行事に参加して頂いたり、食事内容を報告したり等)を中心に、会議を開催している。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩などで外出する際、近隣の方々と挨拶を交わしたり、ホーム行事として行っている余興への案内を玄関先に掲示している。最近では、児童会館の子供達の方から「あかねホームの人でしょ?」と声をかけてくれるようになってきた。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会している。地域のお祭りなどの行事に参加し楽しませていただいている。また、町内で活躍しているグループが月1回訪問し、入居者と一緒に体操指導してくれている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	話し合いや取り組みは行っていない。	今後、運営推進会議等で地域住民の方々の意見を参考に、当グループホームとして役立てる事は何かを検討し、随時取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価を全職員に行ってもらい、現状の理解・再確認を行っている。また、外部評価の結果はカンファレンスで全職員に周知し、改善に向け取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、行事内容や普段の生活の状況・食事内容等を報告し意見交換の場とさせて頂いている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の出前講座等を市の方に依頼する程度で、それ以外の交流はほとんど出来ていない。定期的に行われている管理者連絡会議には参加している。</p>	<p>どのような事で行き来する機会を作ったらよいか教えて頂きたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>特に学ぶ機会を持っていない。</p>	<p>現在のところ対象者はいないが、今後必要と思われた時にスムーズに対応できるよう、勉強会を開催していく努力をしたいと思っています。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>カンファレンスを利用し虐待について再確認等行っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約・解約に関しては十分に時間をかけ説明し、利用者、特にご家族様には契約内容や解約理由等を十分に理解していただいたうえで行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や不満・苦情はその都度聞き入れる姿勢で毎日対応しており、対応可能な部分に関してはその場で対応し、検討が必要な場合はカンファレンスで話し合い、できるだけ利用者の意向に沿えるように対応している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回ご家族に各利用者の暮らしぶりやホーム行事、職員の異動等記載し、各担当者からのコメントも入れ送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に苦情ボックスを設けているがボックスに投稿するご家族は殆どいない。そのため、面会時には利用者の近況報告すると共に、意見や不満・苦情等が無いが尋ねたり、話しやすい雰囲気を作ったりし、心がけている。先日も苦情(ご意見)を頂き、即対応させて頂きました。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務時やカンファレンスで職員からの意見を聞き留め、管理者の方から運営者に意見を述べ反映できるようにしている。また、逆も同様に対応することができている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診対応等、事前に予定が分かっている時は、利用者や他職員に迷惑とならない様なシフトを組んでいる。また、突発的な対応が必要な場合は、適時対応しており、各職員も協力的で柔軟に対応してくれている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は離職者を減らしたいということから、一定期間の勤続者に報酬を与えたり、各職員の誕生日にはプレゼントを渡したり等の配慮をしてくれている。努力の甲斐あって、離職率は減少していると思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		前年度同系列のホーム見学を予定していたが、実際に行う事ができなかったため、今年度は行える様に努力したい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		必要な各種研修費用は会社負担で受けさせてくれている。また、勤勉者や資格取得者にはベースアップ等考慮してくれている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		利用前には、必ず本人にお会いし、不安や希望をよく聴き、ニーズを把握するよう努めている。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		上記同様、ご家族にも事前にお会いし、可能な限り利用者・ご家族の希望に添える介護ができるよう、スタッフ間で話し合いを持っている。また、事前に居宅ケアマネから情報をもらい、在宅生活での様子を把握できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の思いなど、状況の確認を行い、必要としている支援・どのようなサービスが必要か見極め、ご家族に提案させていただいている。入居が妥当でないと感じた際には、他サービス利用の情報を提供させていただいている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前にホームを見学して頂き、ホームの雰囲気を感じてもらい、納得した上で、利用(入居)して頂いている。また、ご家族や居宅ケアマネからの情報を頂き、利用者個々の馴染みの生活ができるよう対応させていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の若かった頃の話や興味のある話をしたり、利用者の得意分野をお手伝いしてもらいながら、昔ながらの慣習や知恵などを教わっている。また、スタッフ自身が明るく、笑いが耐えないため、ホーム内はいつも明るく、入居者も笑いが耐えない環境になっていると思われる。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	電話や面会など、必要時には協力して頂いている。面会時や電話などでご家族の悩みや不満を聞き少しでもストレスを発散できるように対応している。また、行事の参加の呼びかけをし、入居者とご家族が一緒に過ごせる機会を提供している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までの家族関係を十分に把握できるよう、家族・本人の思いを確認し、職員がクッション役となり、より良い関係が築けるよう配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの場や好きな場所などに行けるよう工夫したり、友人や知人が来訪しやすいような雰囲気作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ゲームや歌など、共通に好きな事柄を通して、利用者同士が関わりを持てるよう支援している。また、職員も利用者の輪の中に入り、楽しく和やかな時間を過ごせるよう、努めている。孤立しているような利用者に対しても、職員が中に入り、関係がうまくいくような配慮をしている。関係がこじれてしまった場合(こじれそうな時)は食事の席換えを行ったり、環境を変えるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	頻繁には行っていないが、年賀状のやりとりをしたり、時々電話をしたりなどの対応はさせていただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉や表情から気持ちを汲み取り、その真意を推理して接している。また、ケアプランの更新時期には本人の意向を確認し、プランを立案するようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や知人、居宅ケアマネ等から情報を頂いたり、普段の何気ない会話の中から情報を得ている。また、これらの情報を記録に残し、スタッフ間で把握できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員は日々の関わりや、個人記録などを通してトータル的に利用者個々を見るよう努力している。また、スタッフ自身も何事にもプラス思考で考えるため、「やって駄目だったら他にできる事をやってみましょう」的に前向きに考え対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を利用し、各担当職員が利用者の希望・現状・課題・できる能力を把握し、それを元にスタッフ全員で話し合い、介護計画を作成している。また、支援専門員が事前にご家族からの希望や意見も伺い、プランに反映できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に計画の見直しは行えている。また、利用者の状況やプラン内容によっては、評価期間を変更したり、評価時期前に特変があった場合などはその都度話し合い、プランを変更している。また、独自のケアプランチェック用紙を活用し、ニーズ・長期短期目標・具体的計画内容が現状に合っているかどうか確認できる様にしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録＋ケアプランチェック用紙を利用し、実施の有無・実施してみてどうだったか等が把握しやすくなり、特にケアプランチェック用紙は介護計画の見直しに役立っていると思われる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急時はもちろんのこと、本人やご家族の状況に応じ、通院などの必要な支援は柔軟に対応できている。また、ご本人にありのままを伝えると混乱する様な事柄は、ご家族にも協力を頂いて、口裏を合わせて頂き、混乱無く済んでいるケースもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域消防職員に救命救急講習や、避難訓練、運営推進会議での講演などをしていただいたり、児童会館の子供達の訪問や児童館での催し物、地域で開催されるお祭りや講演会などに招待してくれたり、地域との協力も得られるようになってきている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	その方に合ったサービスを提供できる様、地域包括支援センターのケアマネージャーや主治医と情報交換をし、スムーズに対応できる様に対応している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	左記の内容に関して協働はないが、推進会議の内容の提案やご意見などを頂き、以前に比べると会議の内容が濃くなったと思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前にかかりつけ医や受診希望病院などの確認を行っており、本人・家族の希望するかかりつけ医を決定している。月2回かかりつけ医の往診があり、緊急時も柔軟に対応して頂いている。また、必要時には専門医への紹介も行って頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週看護師に来て頂き、健康状態の確認を行って頂いている。また、必要時には看護師目線からの的確なアドバイスや研修会を行って頂いている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には介護添書を添え、ホームでの様子など詳しく説明し、利用者が混乱しないよう配慮している。入院中は病院やご家族に電話で状況確認し、入居者と一緒にお見舞いにも行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	全てのご家族に確認はしておらず、高齢や体調の変化が著しいご家族にはその都度確認させて頂いている。		一部の家族のみにではなく、今後は全てのご家族に終末期のご希望を確認しておく必要があると感じるため、早期に確認作業をしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	前年度看取りを行ったことから、スタッフ間でも看取りに対し少し関心を持ってくれたと思われる。看取りを実施する際も、研修会を行い、様々な意見を出してもらい、スタッフが一丸となって取り組む事ができた。また、主治医・看護師との協力体制があったからこそ、看取りケアを行う事ができた。今後も医療機関と協力しながら対応していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所へ移る際は、フェイスシートやケアプランなどの情報を提供し、環境変化によるダメージを最小限にできるよう努めている。また、ご家族には、十分に説明し理解して頂いたうえで対応させてもらっている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者ひとりひとりの性格を考え、その方の自尊心を傷つけないよう、声掛けをしたり、さりげなく介助をしているが、他利用者に危害を与える言動等がみられた場合には、注意等させていただくこともある。また、記録に関してはその方の様子が分かる様に、ありのままの言動を記録してもらっているが、主観的な記録はしないようにと、随時会議などで指導している。</p>		<p>傷つけないよう、プライバシーを損ねないよう努力してはいるが、つい自分のものさしで物事を言ったり、決めたりしている傾向があるため、勉強会などを通して、改善できることは改善するように努めていきたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の性格や理解力に合わせ、利用者自身が決定できるような声掛けや場面を作っている。個人によっては、職員が提案したりし、いくつかの事柄から本人が選べるようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>共同生活で必要な最小限の規則はあるものの、大きな縛りはなく、買物や散歩・入浴など利用者の体調や希望に合わせ本人のペースで行えるよう支援している。個人の希望を可能な限り優先しているが、生死に関わる事柄に関してはスタッフの意見を通させて頂くこともある。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自己決定で身だしなみやおしゃれが難しい方には職員が選び、同じ衣類が続かないよう配慮している。また、衣服の汚れなども、その都度交換したり、外出時には本人の望む服に着替えたり、身だしなみには注意を払っている。また、季節感が感じられない入居者には、衣替えを行ったりし、時季に合わせた服装ができるように工夫している。月1回訪問美容があり、希望者は毛染めやパーマなど行える。また、希望者には本人の望む店の利用ができるよう随時対応している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立は基本的に事業者が考えたものを使用しているが、週末は利用者の食べたいメニューを取り入れている。また、朝食は希望に応じパン食にしたり、臨機応変に対応している。下ごしらえや盛付など利用者と共にっており、後片付けに関しては当番制にし、一人の人に偏らないよう配慮している。夏場は一緒に畑から野菜を収穫してきて調理したり、季節感が感じられるようにも対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	特に規制はしていないため、お酒やタバコは決められた時間や場所であれば好きなようにして良いことにしている。飲み物やおやつに関しても厳しくはしていないが、疾患によっては、ある程度スタッフが把握し必要以上に食べないように注意を払っている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、時間で声掛けや誘導を行っている。便秘気味の方には水分摂取を促したり、乳酸菌飲料を摂取してもらったり、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の体調や希望に合わせて随時対応している。拒否時には無理強いせず、次の日に対応したり、少し時間をおいてから再度声掛けしたり、入浴したくなるような声掛けをしたり、工夫しながら臨機応変に対応している。気分転換に隣の銭湯での入浴も検討している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	散歩や外気浴・お手伝いなど日中の活動を促し、生活のリズムをつくるとともに、利用者の体調・表情を考慮し、ゆっくり休息できるよう配慮している。夜間眠れない方にはスタッフとゆっくり話をしながらホットミルクを飲んでもらったり、安心できるようその都度対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理が得意な方には調理を、身体を動かすことが好きな方には掃除を、計算が好きな方には計算問題を、歴史が好きな方には歴史の本を等等、その方の得意な事を積極的に取り入れ、張り合いを持ってもらっている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人の理解力に応じて少額を自己管理していただいている。買物等に行った時でもできるだけ個人で支払いができる様に援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調や気分・天候に合わせて、散歩や買物、図書館など行きたい所に行けるよう対応している。また、外出や外泊もご家族の協力を得て行って頂いている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事として外出レクを計画し、水族館や動物園・花見・大型ショッピングセンターへの買物を年2・3回実施している。個人行動を好む方にはスタッフとワンツーマンで外出したり等の工夫もしている。また、それ以外では、随時近くの喫茶店やダイエー・イイアスショッピングセンターに行き、買物や外でのコーヒータムを楽しんだり対応している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時には電話をかけられるようにしている。また、ゆっくり話をしたい方には事務所で電話をかけられるよう、その方に合わせた対応をしている。手紙やハガキも代筆したりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	常識ある時間帯であればいつでも面会ができるようにしている。また、いつでも気軽に来訪しやすいような雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行わない様、あらゆる角度から物事を見て、対応するよう取り組んでいる。		身体拘束において職員が共通認識できるよう、随時勉強会を開催していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけることなく、利用者がいつでも外に出られる環境にある。夜勤帯など職員が一人になる時間帯は、防犯の意味で施錠している。それ以外は施錠していない。玄関にセンサーコールを取り付け、人の出入りがわかる様に工夫はしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は利用者を常に見守りながら、料理や記録など、日常業務を行い、さりげなく全員を把握するようにしている。夜間は数時間毎に巡回し、安否確認を行っている。夜間の巡回を嫌がる方には、その都度説明し必要であることを理解して頂いている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>基本的には自己管理して頂いているが、利用者の状況に合わせ、危険防止に配慮している。工夫しても危険の回避が困難と思われる場合には、利用者の身の安全を考慮して、保管や管理をさせていただいている。(特に果物ナイフやカミソリなどは回収している)</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ヒヤリハットや事故報告書の記載を徹底し、カンファレンス時には事故防止対策委員が主導となり、事故防止に向け対策をとっている。また、事故発生時にのみ重要視するのではなく、事故内容によっては対応・結果など数ヶ月にわたり検討している。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防の救命救急講習を受け、心肺蘇生法など緊急時の対応を全職員ができるように努めているが、ホームに持ち帰り、定期的な確認や訓練をすることはできていない。</p>		<p>緊急時には迅速に対応することができるように、定期的に確認や訓練を行い、緊急時には全職員がしっかり応急手当ができるようにしていきたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年1回消防による避難訓練に合わせ、町内会の防災班の方にもご協力を頂き、訓練している。</p>		<p>災害時エレベーターが使用できない時の避難方法を再度話し合い周知していく必要がある。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>考えられるリスクは家族に説明し、あわせて予防策も話し合う機会を持っている。抑圧感を感じることなく、安心して生活が送れるよう考慮し、ご家族にも理解していただけるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタル測定を行っている。また、表情や動きなど普段からよく観察し、体調変化にいち早く気付くように各職員些細なところまで観察している。その状態を記録に残し、必要時には主治医に連絡し、往診などしていただいている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各利用者の服薬内容がわかるよう、ファイルしているが、全ての職員が全ての入居者の服薬内容等は理解することはできていない。服薬内容や処置内容などの変更時には、個人記録に記載する他、職員間で周知しやすいように、引継ぎ簿に記載するようになっている。		服薬内容を分かりやすいように、一覧表を作ったが、活用はあまりされていないと思われる。勉強会等で周知できる様に取り組んでいきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品の摂取を促したり、食物繊維の多い食材を多く使用するなど、口から摂取するもので工夫している。また、普段から排便状況を確認しながら水分摂取や運動(散歩や体操)を促し、自然排便できるよう気をつけている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者の能力に応じて食後の声掛けや介助を行っている。そのためか、習慣がなかった方が自ら歯磨きをするようになってきている。誤嚥性肺炎も防止することができている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量は毎日チェックし、把握できるよう努めている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を受けてもらっている。調理に携わる時は職員はもちろん、利用者にも手洗いの声掛けをし、感染予防に努めている。また、台所用品の消毒・洗面所でのペーパータオルの使用、外出から帰ってきた時には、うがい・手洗いの施行に努めている。毎日の掃除も消毒などに配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所用品(まな板・ふきん)やシンクは毎日消毒している。食材の残りは日付を記入し冷凍保存したり、状態を確認し冷凍保存や処分をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先にベンチやプランターを置いたり、玄関は開放し気軽に出入りできるように工夫している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>テーブルに花を飾ったり、壁には季節に合わせたきり絵を飾ったり、短冊やクリスマスツリーを飾るなど季節感を感じられるよう工夫している。また、トイレは車椅子が完全に入らないので、カーテンを利用し中が見えないようにしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにはソファを置いて、気の合う利用者同士で座って談話できるようにしている。また、食堂テーブルが気の合う利用者同士で過ごせる場所にもなっている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際には使い慣れた家具や食器類を持ち込んでもらっている。部屋には家族の写真を飾ったり、できるだけ馴染みの物を置いてもらい、自宅での生活と変わりなく生活していくことができるように工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度・湿度計を設置している。建物の構造上、なかなか風が通らないため、夏場はできるだけ風通しをよくする工夫をしている。冬は乾燥しすぎないよう、暖房の調整に気をつけたり、濡れタオルをかけたり、加湿器を設置したりしている。トイレは自動換気扇と消臭剤の使用で臭い等の解消をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

一日の日課や共同生活をするうえでの基本的な規則はあるが、規則には縛らず、その人がその人らしく、自由に生活していくことができるように、対応している。上は90歳下は53歳と年齢層も幅広いが、スタッフ自身も明るい方が多いので入居者とスタッフとの関係も上手く調和がとれていると思われる。何か新しい事に取り組む時や、今まで対応したことがないケア等に関しても、消極的ではなく、「やってダメだったら他の方法を考えよう」と前向きな姿勢で取り組むことができているので、新たな発見ができています。また、利用者個々の得意な分野に目を向け、その能力を伸ばしてあげ、持っている能力を維持していくケアを心がけています。